

会員各位

# 協会だよりー260(8月号)

JCRA(Japan Catalyst Recovering Association)

触媒資源化協会

トピックス：2件ご案内。

- 第222回月例会（見学会）・・・**8月5日（火）**までご返事ください  
見学日：9月8日（月）12時30分～20時00分  
見学先：首都圏外郭放水路（埼玉県春日部市上金崎720）  
備考：開催のご案内は7月18日（金）にメール添付でご案内済み。
- 第223回月例会（一泊研修会）・・・**8月18日（月）**までお返事ください。  
開催日：10月3日（金）～4日（土）一泊二日  
見学先：三菱マテリアル㈱直島製錬所殿  
集合地：JR岡山駅西口（10：35までに）  
備考：開催のご案内は7月29日（火）にメール添付（改訂版）でご案内済み。



マクタン島ラプラプ市 Bulewater リゾートにて

- 一．協会よりのお知らせ
- 二．担当者交代のお知らせ
- 三．第二二二回月例会（講演会）が終わって
- 四．事務局より（八月度の予定）
- 五．一泊研修で訪れる直島は
- 六．【雑字】笈の小文編（2）く芭蕉が憧れた吉野山の桜を愛でる（伊賀から吉野へ）

## 1. 協会よりのお知らせ

### 【実施済事項】

- ① **協会だよりー259（7月号）** をメール&郵便で送信（7/1）
- ② 第221回月例会・幹事会  
日時：平成26年7月3日（木）16：00～17：00  
場所：協会事務所（ニュー新橋ビル601-A）  
幹事：アマタ（株）、（株）光正、日誠金属㈱、クラリアント触媒（株）の4社
- ③ 第221回月例会（講演会）開催  
日時：7月10日（木）13時～17時

会場：エッサム神田ホール2階 (201) 多目的ホール

題目：PPS (特定規模電気事業者) と再生可能エネルギーのお話

講師：(株)エヌパワー代表取締役社長 中山貴晴氏

日本再生可能エネルギー総合研究所代表 北村和也氏

④ 第二回運営委員会

日時：平成26年7月17日 (木) 16:00~17:00

場所：堺化学工業株東京支店会議室

出席：運営委員、第221月例会幹事(アマタ、光正)、第222月例会幹事(小島化学薬品)・・・  
敬称略

⑤ 第222回月例会 (見学会) のご案内 (首都圏外郭放水路見学) (7/18)

⑥ 第223回月例会 (一泊研修会) のご案内 (三菱マテリアル株直島精錬所殿見学) (7/29)

**[予定事項]**

① 第223回月例会 (一泊研修会) の幹事会・・・予定 (調整中)

日時：平成26年8月26日 (火) 16:00~17:00 場所：協会事務所 (ニュー新橋ビル  
601-A) にて

幹事：三菱マテリアル株、ヘレウス株、石福金属興業株、日本無機化学工業株の4社

2. 担当者交代のお知らせ

日揮触媒化成株 (前) 藤島 浩さん ⇒ (新) 木島嘉之さん (触媒営業部ケミカル触媒営業  
グループ) 運営委員も引き継がれます。(7月18日交代の連絡がありました)

3. 第221回月例会 (講演会) が終わって

7月10日 (木) 台風の直撃も予想される中、雨風にも遭わず、開催されました第221回月  
例会 (講演会・懇親会) は無事終了いたしました。会員出席者44名、幹事長会社・アマタ株  
様には講演された中山貴晴様と北村和也様に講師をお願いしていただき誠にありがとうございました。また講演会の感想文は幹事会社・(株)光正の竹下裕子嬢にお願いしておりますのでご覧  
ください。

● 講師を囲んで出席者の皆様



## ● 聴講感想文 (株式会社光正 営業部 竹下裕子)

梅雨の湿気と初夏の熱気で蒸し暑い日が続いております。この日はさらに台風が接近中ということでしたが、悪天候の中勉強熱心な会員の皆様が多数お集まりくださり、今回最も微力な幹事としてこの会に携わった私としては感無量です。講師には株式会社エヌパワーの中山社長殿、及び日本再生可能エネルギー総合研究所の北村代表殿の2名をお招きし、昨今のエネルギー事情と現状について、知識がない私にもわかりやすく丁寧な内容で下記3部に分けてご鞭撻頂きました。

1部(北村代表)：日本のFIT制度(電気の固定価格買取制度)について

2部(中山社長)：株式会社エヌパワーの事業内容について

3部(北村代表)：再生エネ先進国ドイツの歴史と事例について

**第1部**：エネルギー資源(石油・石炭・天然ガスなど)が乏しい日本で、再生可能エネルギー(以下再エネ)の普及率を高めるため、2012年7月より、電気会社が再エネで発電された電気を固定価格で買い取るFIT制度が導入されました。FIT制度はコストが高く、企業がなかなか手を付けにくい再エネビジネスを広げるきっかけとなり、始まった当初年間発電量の割合の1%だった再エネですが、現在は2%に増えたそうです。倍になったといっても再エネ事業はまだまだこれから発展させていかなくてはならない事業のようです(目標は20-30%)。

**第2部**：株式会社エヌパワー様のエヌはNaturalのエヌだそうです。前述のFIT制度を利用し、太陽光発電や、温泉発電などの再エネ電力を大手電力会社より高く買い取り、安く販売するというビジネスを構築され、各自治体に貢献されています。一般電力会社との契約内容と、使用量から計算される負荷率によって生じる料金の差を利用して、必要量のみ確保することで無駄なコストをカットすることで成り立っているビジネスだそうです。エヌパワー様の力を借りて、弊社でもコストカットを…と考えられた会員の皆様も多くいらっしゃったのではないのでしょうか。みなさんこの話に目が釘づけでした。またエヌパワー様は地元で発生させた再エネを地元へ安く供給するという事業のサポートもされており、今回の再エネで成功のキーポイントの一つは、地元・自治体の中で知識や情報を共有して密に取り組んでいくことかなという風に感じました。

**第3部**：ドイツでは70年代からエネルギー調達を見直す議論が活発に行われており、2000年にFIT制度を導入しているのです。2012年には再エネから発電された電気量の割合は23%を占めています。再エネの分野では日本の先輩なので、ドイツが経た経緯・事例を学ぶことで、参考にできる点が多々あります。ドイツでFIT制度は失敗したという声があるそうですが、その根拠がないことが北村先生の説明でわかりました。電力を利用している側としては特に、再エネの買い取り費用として電気料金に上乗せされる賦課金の増加が気になるところですが、その賦課金は再エネ事業の担い手に戻ってきており、ドイツではそのおよそ半数が個人であるという実態があります。日本人は個人で投資をすることを苦手とする人が多いですが、受け身で見守るだけでは損をしまいそうです。実際町全体で再エネ事業を行っているヴィルトポルツリートというドイツの町をご紹介頂き、積極的に町民も投資に加わり発生したエネルギーで町全体が潤っているというまさに理想的なFIT制度の活用例だと思いました。

講演終了後は質疑応答も活発に行われ、日本のエネルギー政策の現状や、FIT制度についてさらに理解を深められたかと思います。将来最終的にはFIT制度がなくなることが目標とのことで、私たちの再エネはまだ始まったばかりのようです。一方で、知識がないと失敗するリスクも兼ね備えている制度だということもわかり、国を挙げての事業なので、みんなで考えていけないのだと認識させられました。

今回、貴重な講義を行って頂いた北村代表、中山社長、本当にどうも有難うございました。

4. 事務局より (8月度の予定)

月	火	水	木	金	土
7/28	7/29	7/30	7/31	1	2
×	○	×	○	○	×
4	5	6	7	8	9
×	○	×	○	×	×
11	12	13	14	15	16
×	○	事務所休業			
18	19	20	21	22	23
○	○	×	×	○	×
25	26	27	28	29	30
×	○	×	×	○	×

8月度の出勤予定：9日間

5. 一泊研修で訪れる直島町は

直島町は香川県高松市の北方13km、岡山県玉野市の南方3kmに位置します。香川県の島でありながら岡山県寄りなので、直島行きの船は高松港、宇野港（玉野市）の両側から出ています。私たちは宇野港（玉野市）よりフェリーボートに乗り込みます。

色々なルートがありますが、私たちはJR岡山駅より貸切バスで宇野へ向かい、直島島内もそのバスで巡ります。直島町観光協会 HP

([www.naoshima.net/](http://www.naoshima.net/)) より



**崇徳上皇の歌碑**  
 松山や 松のうら風 吹きこして  
 しのびて拾う 恋わすれ貝



保元の乱に敗れた上皇が讃岐配流の途次滞在されたといわれるのが琴弾の浜である。恋を忘れられるという忘れ貝を拾い京の都を恋うる想いを詠まれたという伝承が残っている。歌碑は、海の家つつじ荘に設置されている。直島町 HP ([www.town.naoshima.lg.jp/](http://www.town.naoshima.lg.jp/)) より

【雑学】笈の小文編(2) ～芭蕉が憧れた吉野山の桜を愛でる～ (伊賀から吉野へ)

初日の宿泊、ホテルアジュール・奈良アネックスはビジネスホテルながら、二階には大浴場があり、夕食はボリュームたっぷり温泉ホテルの趣で宴会が始まりました。



お品書き

〔先付〕華の花胡麻和え  
 〔造り〕海鮮二種盛り  
 〔小鍋〕鯖と桜素麺の小鍋  
 〔揚物〕胡麻豆腐とあいなめ揚げ出し  
 〔蒸物〕白魚茶碗蒸し  
 〔酢の物等〕ヤマトボークしやぶしやぶサラダ  
 〔食事〕山菜と筍の釜飯  
 〔汁物〕味噌汁  
 〔香物〕奈良漬の金山寺味噌和え  
 〔デザート〕くずもち

ホテルアジュール奈良アネックス

夕食後、飲兵衛5人で二次会が始まり、盛り上がって他室に迷惑をかけた模様です。同宿の皆さん御免なさい！就寝。

さて日は変わり旅の二日目となりました。いよいよ本日は大本命の吉野山行きです。8:30 ホテルを出発、バスは一路吉野山を目指して南下します。奈良盆地を突っ切り、橿原市を過ぎると山地に入ります。山を下ると眼下に吉野川が見えてきます。橋を渡った対岸が吉野山、観光バスや乗用車の通行規制が始まります。この桜の季節は駐車場の予約済みカードがないと奥まで入れないようです。私たちのバスは予約済みで通行OKです。まずは最初の見学先如意輪寺(中千本)を目指してバスは進みます。

《如意輪寺》奈良県吉野郡吉野町吉野山 1024

吉野山は飛鳥時代より数々の政争の歴史を有する場所です。足利尊氏との政争に敗れた後醍醐天皇が京を逃れてここ吉野山を皇居としました。

いわゆる京と吉野の南北朝時代の始まりです。

如意輪寺は浄土宗塔尾山椿花院如意輪寺と称し京の都に戻りたいと願望した後醍醐天皇の勅願寺です。時代は下り、第97代後村上天皇の正平2(1364)年、楠木正行公(楠木正成公の子)が四条畷の決戦(足利の武将高師直との戦い)に向うとき、如意輪寺(本堂)の扉に鏝を以って辞世の歌「かえらじとかねて思えば 梓弓なき数に入る名をぞとどむる」を書き残して出征しました。

また境内には楠木正成が湊川の合戦に赴くとき、息子・正行(まさつら)と今生の別れ(桜井の別れ)の石像が建立されています。



～青葉しげれる桜井の・・・～唱歌「桜井の決別」

- 1.青葉しげる桜井の里のわたりの夕まぐれ・・・
- 2.正成涙を打払い我が子正行呼び寄せて 父は兵庫に赴かん 彼方の浦にて打ち死せん 汝はここまで来つれども とくと帰れ故郷へ

唱歌歌詞2番に歌われているシーンの石像です。

父との別れから12年後、後村上天皇の忠臣として四条畷の決戦に向うこととなります。

如意輪寺は吉野山中千本を眺める絶好の場所としても知られています。境内には将来を考えて、個人の寄進による桜の苗木（個人名が明記されている）が数多く植栽されています。では如意輪寺境内の桜と中千本の眺望を紹介いたします。



● 如意輪寺境内にある芭蕉さんの句碑

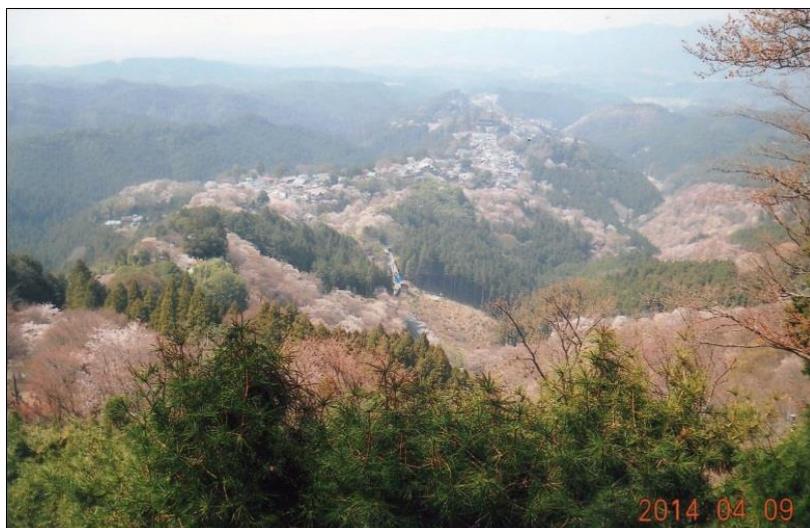


**御廟年経て忍は何を志のぶ草 (野ざらし紀行)**  
 貞享元年、野ざらし紀行で吉野を訪れたときの句。  
 紀行の前文に～山を昇り坂を下るに、秋の日既斜になれば、名ある所々見残して、先後醍醐帝の御廟を拝む～とあります。

後醍醐天皇のみささぎは、吉野に年経て、軒には忍草が生えている。南朝の流寓の天子への懐古で胸が一杯だ。(山本健吉氏の解釈)

芭蕉は勝ち組より負け組みに好意を寄せる文が多いようです。頼朝より義仲、義経へ。頼朝に追われた義経を守った佐藤継信・忠信の兄弟へ。奥州平泉の藤原氏三代へ。また足利尊氏より楠木正成、後醍醐天皇へなど。

中千本より奥千本の間は、一般の観光バスは通行止め、専用のシャトルバスに乗り換えて向います。下の写真は上千本からの眺望。



《金峰山神社 (奥千本)》 奈良県吉野郡吉野町吉野山 1292



木の葉散 桜は軽し 檜木笠 (野ざらし紀行)

九月に桜の紅葉を見に吉野に入った。桜の紅葉が檜木笠に降りかかったが。桜だから軽いね!といった口調の句です。

金峰山神社より上は、本格的山道になります。最初は階段状ですが、泥濘もあり悪路に注意しながら尾根まで登ります。ここから目指す西行庵は高低 200m程下ったところに有ります。帰りの登りを考えると迷いますが、意を決して急斜面を下り、西行が隠遁生活を送ったと言われる西行庵へと向います。

《西行庵》 奥千本

西行庵向かいの山は、杉が伐採されています。多分この山肌は桜の木を植えて、近未来には満開の奥千本が誕生するのでは (筆者の感想)。芭蕉さんは西行庵を二度訪れているようです。



杉が伐採されて丸裸の山肌

西行庵より再度、苔清水を經由し尾根まで戻ります。奥千本のシャトルバスの乗り場で一休憩。ここから下千本の駐車場まで約15キロ、桜を堪能し山道を下ります。



下り一方で膝はがくがくですが、綺麗な桜を眺めて一休み。その下山途中の上千本からの眺望です。下千本辺りの薄墨色の桜、途中の杉の緑、近くの桜はほんとはんに桜色。

《吉水神社》(中千本) 奈良県吉野郡吉野町吉野山 579

後醍醐天皇が行在所としたため南朝の皇居といわれた元吉水院。役小角が創建した金峰山寺の塔頭の一つとされています。明治の神仏分離により吉水神社となりました。神社境内手前の広場より眺望する一目千本の景色は一見物です。



● 東南院境内にある芭蕉さんの句碑



ある坊に一夜をかりて  
**礎打ちて我にきかせよ坊が妻** (野ざらし紀行)  
貞享元年、野ざらし紀行の旅で宿坊に泊まったとき、宿の女主人より心の行き届いたもてなしを受けたときの挨拶句といわれています。  
背景として古歌・参議雅経の「みよし野の山の秋風さよふけて古里寒く衣うつなり」(新古今和歌集)が有るようです。

さて 15:00 で昼食の時間は大幅に過ぎましたが昼食タイムです。急いでうどん定食などをかき込みました。中千本の商店街は大勢の人で溢れ返っています。



吉野山中にある芭蕉句碑七基の内最も古いもの  
**花さかり山は日比の朝ぼらけ**  
吉野下千本風山下  
(文化十四年(一八一七)建立)

いよいよ吉野山に別れを告げる前に、一目千本の桜をアップで紹介いたします。



今日のお宿は高野山別格本山西南院宿坊(和歌山県伊都郡高野町高野山249)です。バスは吉野山を吉野川に沿って下り、五條、橋本を經由、高野山の山道に入ります。2時間かけて到着。標高900mの高野山には日陰に残雪が。西南院の給仕はすべて男性のお坊さん、精進料理を感じさせない上手に調理した料理の数々。有料ですがビール、日本酒OK。ビールの自販機もあります。

明け方には氷点下になるとか。布団の中には湯たんぽが入っていました。感謝!

翌朝、6:30より勤行に出席。勤行出席が高野山の宿坊に泊まった大きな経験になりました。では夕食の豪華な精進料理を紹介いたします。合掌、一粒のお米にも感謝をして、いただきます!



【文責：専務理事】